

## (第6期) 滋賀県環境こだわり農業推進基本計画の進捗状況について

R6年4月時点

進捗状況							目標値	(参考) 目標値
(参考) 計画策定時の現状値			計画期間の実績					
2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5 (見込み)	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2026 R8	2030 R12

重点施策1：地球環境問題に対応する生産性の高い環境こだわり農業の推進								
水稻新品種「きらみずき」作付面積（水稻作付面積に占める割合）								
-	-	-	55 ha (0.2%)				1,000 ha (3.3%)	2,000 ha (6.6%)
(進捗状況に対する評価等)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年11月から新規生産者の掘り起こしを図るため、説明会等を開催した。</li> <li>・R5年産では農業者74名、作付面積約55haとなり、主食用米に占める割合は0.2%となった。</li> <li>・R6年産の作付拡大に向けて農業者等への説明会をR5年8月から11月にかけて開催した。</li> </ul>								
化学肥料出荷量 <sup>※1</sup> の削減率（2016 肥料年度比） ※1：県内への化学肥料出荷量（主要窒素肥料）								
-							10%削減	22%削減
(進捗状況に対する評価等)								
・評価指標の元となる統計データの集計方法が見直し中。（R6年3月頃公表予定）								
化学合成農薬出荷量 <sup>※2</sup> の削減率（2019 農薬年度比） ※2：県内への農耕地用農薬出荷量（成分換算）								
6%増加	7%増加						5%削減	11%削減
(進捗状況に対する評価等)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の高温により殺虫、殺菌剤の使用量が増加したと推定される。</li> <li>・R4年度の実績はR6年4月頃に公表予定。</li> </ul>								
家畜ふん堆肥の耕種農家の年間施用面積（耕地面積に占める割合）								
8,000 ha (15.6%)	8,700 ha (17.1%)	10,000 ha (19.8%)					8,600 ha (16.8%)	11,000 ha (21.5%)
(進捗状況に対する評価等)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県ホームページの「家畜ふん堆肥情報コーナー」を通じて情報発信を行い、耕種・畜産農家のマッチングを進めた。また、関係者会議等を通じて、耕種・畜産農家に対して情報提供し、家畜ふん堆肥の利用促進に取り組んだ。R4年度は「家畜ふん堆肥活用推進事業」を活用して、22件の畜産農家が、家畜ふん堆肥の散布面積の拡大に取り組んだ。</li> <li>・効率的な堆肥散布作業が可能な大規模水田作経営体や集落営農法人を中心に、引き続き家畜ふん堆肥の利用拡大を推進する。また耕種農家にとって使い勝手の良い「完熟堆肥」と「ペレット堆肥」の生産を推進するため、完熟堆肥の製造技術とともに、施設整備を引き続き支援する。</li> </ul>								
カバークロップ取組面積（耕地面積に占める割合）								
180 ha (0.4%)	133 ha (0.3%)	145 ha (0.3%)	173 ha (0.3%)				800 ha (1.6%)	1,000 ha (2.0%)
(進捗状況に対する評価等)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・米の需要減少等により主食用米の作付け全体が減少することに伴いカバークロップの取組面積も減少している。</li> <li>・今後、環境保全型農業直接支払交付金制度を活用することで、土壌中への炭素貯留効果の高い取組の一つとしてカバークロップの取組を促進する。</li> </ul>								
長期中干し実施面積（水稻作付面積に占める割合）								
11,014 ha (35.4%)	10,883 ha (36.2%)	10,728 ha (37.0%)	10,633 ha (37.6%)				12,000 ha (39.9%)	18,000 ha (59.8%)
(進捗状況に対する評価等)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・米の需要減少等により主食用米の作付け全体が減少することに伴い長期中干しの実施面積も減少している。一方、環境こだわり農業と環境保全型農業直接支払交付金制度の一体的な推進により面積割合は増加傾向にある。</li> <li>・今後も上記制度を活用することで長期中干しを含む温室効果ガス削減の効果の高い栽培の普及を図る。</li> </ul>								

# (第6期) 滋賀県環境こだわり農業推進基本計画の進捗状況について

R6年4月時点

進捗状況							目標値	(参考) 目標値
(参考) 計画策定時の現状値			計画期間の実績					
2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5 (見込み)	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2026 R8	2030 R12

重点施策1：地球環境問題に対応する生産性の高い環境こだわり農業の推進								
秋耕実施面積（水稲作付面積に占める割合）								
18,100 ha (60.1%)	18,167 ha (60.4%)	17,840 ha (61.5%)					19,100 ha (63.5%)	20,100 ha (66.8%)
(進捗状況に対する評価等)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の水稲作付面積が減少したことから、秋耕実施面積は減少したが、秋耕調査対象面積（水稲作付面積）に対する秋耕の実施率については向上した。</li> <li>・引き続き、温室効果ガスの削減と併せ、土づくりや病害虫防除の観点からも秋耕の実施を推進する。</li> </ul>								

重点施策2：環境こだわり農業の柱としてオーガニック農業を位置づけ本格的に拡大								
オーガニック農業実施面積（耕地面積に占める割合）								
-	355 ha (0.7%)	380 ha (0.8%)	390 ha (0.8%)				500 ha (1.0%)	1,000 ha (1.9%)
(進捗状況に対する評価等)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境こだわり農業の象徴的な取組として、米や茶において生産面と販売面での施策を講じた結果、取組面積が拡大した。</li> <li>・今後、水稲新品種「きらみずき」をオーガニック栽培の有力品種のひとつとして推進するなどし、実施面積の拡大を図る。</li> </ul>								
うち米取組面積（水稲作付面積に占める割合）								
-	269 ha (1.2%)	283 ha (1.0%)	279 ha (1.0%)				400 ha (1.3%)	850 ha (2.8%)
(進捗状況に対する評価等)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業指導員を設置し、オーガニック栽培に取り組む意欲のある農業者に対し栽培技術支援を行った。また、水田除草機の実演会や機械導入補助などによって安定栽培技術の啓発・普及を行った。</li> </ul>								
うち茶取組面積（販売用茶園面積に占める割合）								
-	12 ha (4.0%)	9 ha (3.3%)	10 ha (3.8%)				15 ha (5.0%)	20 ha (6.7%)
(進捗状況に対する評価等)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフ茶の需要拡大と「近江の茶」ブランドの向上を図るため、輸出に幅広く対応できる有機栽培の取組を支援した。</li> <li>・低カフェインオーガニック茶製造技術の検討や品質評価等を実施することにより、健康志向に対応したうま味あるオーガニック茶の生産に向けた技術開発を支援した。</li> <li>・産地体制の構築に向けた取組として、オーガニック栽培を推進する産地において、低カフェインオーガニック茶の試験製造や産地戦略の構築を支援した。</li> </ul>								
新たにオーガニック野菜に取り組む生産者数								
-	17人	19人	22人				25人	40人
(進捗状況に対する評価等)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜のオーガニック栽培を志向する新規就農希望者に対して、有機農業を実践する先進農業者から学ぶ研修会の開催や既存オーガニック栽培農家へ相談する機会を設けるとともに、相談体制の構築を図った。</li> </ul>								

(第6期) 滋賀県環境こだわり農業推進基本計画の進捗状況について

R6年4月時点

進捗状況							目標値	(参考) 目標値
(参考) 計画策定時の現状値			計画期間の実績					
2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5 (見込み)	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2026 R8	2030 R12

重点施策3：環境こだわり農業の強みを生かした流通・販売の強化								
水稻新品種「きらみずき」作付面積（水稻作付面積に占める割合）【再掲】								
-	-	-	55 ha (0.2%)				1,000 ha (3.3%)	2,000 ha (6.6%)
(進捗状況に対する評価等) ・R4年11月から新規生産者の掘り起こしを図るため、説明会等を開催した。 ・R5年産では農業者74名、作付面積約55haとなり、主食用米に占める割合は0.2%となった。 ・R6年産の作付拡大に向けて農業者等への説明会をR5年8月から11月にかけて開催した。								
オーガニックビレッジ宣言数								
-	-	1	1				5	7
(進捗状況に対する評価等) ・各市町において、地域ぐるみで有機農業を推進し、「有機農業産地（オーガニックビレッジ）宣言」に取り組まれるよう「有機農業産地づくり推進事業」の活用を推進した。								
環境こだわり農産物等の専用コーナーを新たに設置する店舗数（県内）								
-	-	-	2				20	40
(進捗状況に対する評価等) ・専用コーナー設置に係る経費の支援等により、県内における専用コーナー新規設置店舗数は現時点で2店舗となった。 ・また、R5年度に作成した「環境こだわり農業」に関連する消費者向け動画を補助事業と合わせて紹介し、動画も活用した事業イメージを提案するなどし、専用コーナー設置数のさらなる拡大を図る。								